

【一般の方向け】 PTEGのよくある質問集

栄養目的のPTEGの場合

《日常生活について》

- Q1 PTEGをつくったあと、動けますか？
- Q2 PTEGをつくったあと、口から食べられますか？
- Q3 PTEGをつくったあと、入浴はできますか？

《カテーテルに関するトラブルについて》

- Q4 カテーテルが抜けてしまった
- Q5 栄養剤を入れようとしても入らない
- Q6 カテーテルや接続チューブが汚れている
- Q7 カテーテルのふたがゆるくなってきた
- Q8 PTEGボタンの接続チューブや固定ベルトの予備がほしい

《スキンケアに関するトラブルについて》

- Q9 カテーテルの周りに黄色い固まりがついている
- Q10 カテーテルの周りから出血している
- Q11 カテーテルの周りから注入したものがもれる
- Q12 接続チューブをはずすと注入した物もどってくる

《栄養に関するトラブルについて》

- Q13 下痢が続いている
- Q14 栄養剤を注入すると痰が増える
- Q15 発熱しているが栄養剤を注入しても大丈夫？

Q1 PTEGをつくったあと、動けますか？

A1 PTEGをつくる前と同じです

歩ける方は普通に歩いて下さい。

車いすももちろん大丈夫です。

栄養PTEGで体力がつくと、リハビリにも効果的です。

Q2 PTEGをつくったあと、口から食べられますか？

A2 はい、PTEGが入ったから食べられなくなるわけではありません
のみ込みのようすをみきわめた上で、口から食べられます

のみ込みの状態の検査やリハビリを行いながら、安全に食べられるものを見きわめて、口から食べることができます。

Q3 PTEGをつくったあと、入浴はできますか？

A3 入浴は全く問題ありません 自由に入浴して下さい

PTEGがはいっている部分は水（お湯）がかかっても、全く問題はありません。ビニールや絆創膏などではいっている部分をおおう必要もありません。シャワーも普通にできますし、湯船につかっても大丈夫です。石鹸をつけてきれいに洗って下さい。

温泉や公衆浴場などもOKです。

Q4 カテーテルが抜けてしまった

A4 あわてないで下さい

抜けることで大変なことにはなりません

ただ、抜けてから時間が経つほどあけていた孔（あな）は閉じて行きます。

抜けて間もないならば、もと入っていたカテーテルをそっと入れてみて下さい。5cmほどすっと入れればさらに進めて、もとの位置まで進めて下さい。

抜けてからの時間がわからない場合や、もとのカテーテルが入らない場合は退院の際にもらっているチューブ（レスキューチューブ）を入れてみて下さい。これがすんなり入れば一安心です。その後PTEGをつくってもらった病院を受診して下さい。このチューブも入らない場合はできるだけ早めにPTEGをつくってもらった病院を受診して下さい。

いずれの場合も、注入を始めるかどうかについては、かかりつけの先生やPTEGをつくってもらった病院での確認が必要です。

Q5 栄養剤を入れようとしても入らない

A5 かかりつけの先生やPTEGをつくってもらった病院に相談して下さい

栄養剤やお薬でカテーテルがつまっているか、カテーテルが折れ曲がっているかの可能性があります。

酸化マグネシウム（カマグ）、パナルジンなどのつまりやすいお薬では注意が必要です。お薬の注入は簡易懸濁法をお勧めします。

折れ曲がりは食道の中でおこります。抜けかけたカテーテルを押し込んだときに生じやすいです。

いずれの場合も栄養も水分も入らないので、すみやかな受診が必要です。

Q6 カテーテルや接続チューブが汚れている

A6 汚れは予防が大切です
汚れがひどくなったら、交換するしかありません

カテーテルは通常1～数か月ごとに交換が必要です。交換までの間をきれいに保つために、食酢：お水＝1：9に薄めたものを注入終了後の最後に通す方法があります。PTEGボタンの接続チューブは、薄めた次亜塩素酸水（ミルトンなど）でつけおき洗いをし、使用の前に水道水で流してから使うとよいです。

※この方法は栄養目的のPTEGに使用し、減圧の場合は適宜水や空気でのフラッシュや吸引で対応してください。

Q7 カテーテルのふたがゆるくなってきた

A7 カテーテルを交換してもらいましょう

Q8 PTEGボタンの接続チューブや固定ベルトの予備がほしい

A8 固定ベルトは綿テープなどでも代用できます 専用の接続チューブや固定ベルトは、それぞれ購入することができます (自費です)

かかりつけの先生や、PTEGをつくってもらった病院にご相談下さい。

Q9 カテーテルの周りに黄色い固まりがついている

A9 カテーテル周囲にできた肉芽（にくげ）によることが多いです

肉芽（不良肉芽）とはカテーテル周囲の孔の周りにできる柔らかい盛り上がりを言います。孔の周りが汚れていたり、湿っていたりするとできやすく、かさぶたや出血を伴うこともあります。肉芽に対しては、ティッシュペーパーをこより状にしたものをカテーテル周囲に巻いて乾燥させることが一般的です。それでもよくなる場合は、少量のステロイド軟膏を塗布する、硝酸銀で焼灼するなどの治療が必要です。

まわりと比べて腫れている、熱をもっている、固くなっているなどの様子に伴う場合には抗生物質投与が必要な場合もありますので、かかりつけの先生やPTEGをつくってもらった病院にご相談下さい。

Q10 カテーテルの周りから出血している

A10 着衣やガーゼに血液が付着するくらいの少しの量なら心配ありません

カテーテル周囲にできた肉芽（にくげ）に伴うものが考えられます。Q6をご参照下さい。

多量の出血の場合は、早急に病院を受診して下さい。

Q11 カテーテルの周りから、注入したものがもれる

A11 注入したものが戻ってきていることが考えられます
もれる量が多い場合には、肺炎になる可能性がありますので、注意が必要です

注入は一旦中止し、かかりつけの先生やPTEGを造ってもらった病院にご相談下さい。胃の中が内容物で一杯になっていないかを確認してもらいましょう。

Q12 接続チューブをはずすと、注入した物かもどってくる

A12 胃や腸の圧が高い可能性があります

便秘になっていないか、姿勢がお腹に圧がかかりやすい状態ではないか、注入の量が負担になっていないかなどに注意が必要です。

Q13 下痢が続いている

A13 抗生物質の使用、注入している栄養剤、腸を使っていなかった期間、使っているお薬など、さまざまな原因で下痢は起こります

原因によって対応は異なりますので、かかりつけの先生にご相談下さい。

Q14 栄養剤を注入すると痰が増える

A14 ①栄養剤の逆流による場合と、
②注入したことによる反射で唾液が増えてその結果痰が増える場合、があります

①の場合は、胃の中で栄養剤を固める方法やカテーテルを長いものに変更する方法で逆流を防ぐことは可能ですが、②の場合は栄養剤の注入が危険なこともあるため十分な注意が必要です。かかりつけの先生にご相談下さい。

Q15 発熱しているが、栄養剤を注入しても大丈夫？

A15 発熱があるときは、嘔吐しやすい傾向があり、胃からの排出が早い水分補給に重点をおいた内容にする方が安全です